

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 5	提案機関名 農業技術センター普及指導部
要望問題名 水稻水上防除機器の開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 本県におけるドローンによる農薬空中散布は、県民理解を客観的に得ることが難しいとした平成4年4月21日「無人ヘリコプターによる農薬散布について」の通知をもって防除を実施しないこととなっている。 水稻生産者の高齢化や省力化により、ドローンによる農薬散布の普及が全国的に進む中、本県でも今後導入が期待される技術であるが、ドリフトの安全性を実証し県民理解を得た上、安全に運行することが求められ、現地での技術導入のハードルは高い。 そこで、空中からの農薬散布ではなく、掃除ロボット技術を応用して、田植え後以降水上に配置すれば全自動で指定した範囲の農薬散布や除草ができる機器の開発をお願いしたい。 神奈川県水稻栽培面積 3,080ha	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備 考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名			
対応の内容等 ドローンにつきましては、他県では農薬散布やモニタリング等の使用実績がありますが、本県においては使用実績がないので、安全性の実証を行うとともに、水田区画が小さいため作業性及び機能性についても確認する必要があります。 このことから、ロボット技術につきましては、ドローンによる安全性等の試験について実施し、その他の技術については、ドローン試験後に取組みを検討いたします。 また、御要望の機器の開発につきましては、高度な専門知識と技術が必要ですので、メーカーが開発した機器を注視するとともに、本県に導入可能なものについて検討してまいります。 スマート農業におけるロボット技術については、多方面から情報を収集し、機器等の効果が期待できるものについては情報提供いたします。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備 考			